

学習指導プラン

中学校美術科第3学年

題材名 日本と西洋の美術文化 ～それぞれのよさや美しさを味わおう～

内容のまとめり

〔第2学年及び第3学年〕「作品や美術文化などの鑑賞」
「B鑑賞」(1) ア(ア)、イ(イ)、〔共通事項〕(1)アイ

1 本題材で扱う学習指導要領の内容

第2学年及び第3学年 B鑑賞 (1)

ア 美術作品などの見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めること。

イ 生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(イ) 日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き、美術を通じた国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深めること。

〔共通事項〕(1)

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。

イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

2 題材の目標

(1) 「知識及び技能」に関する題材の目標

・形や色彩などが感情にもたらす効果、構図などを基に、作品の印象を全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。〔共通事項〕

(2) 「思考力、判断力、表現力等」に関する題材の目標

・日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、造形的なよさや美しさを感じ取り、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き、表現の意図と創造的な工夫、美術文化について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。〔「B鑑賞」(1)〕

(3) 「学びに向かう力、人間性等」に関する題材の目標

・美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に日本や西洋の美術作品や美術文化などの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 形や色彩などが感情にもたらす効果、構図などを基に、作品の印象を全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。	鑑 日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、造形的なよさや美しさを感じ取り、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き、表現の意図と創造的な工夫、美術文化について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	態鑑 美術の創造活動の喜びを味わい主体的に日本や西洋の美術作品や美術文化などの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

※知＝「知識・技能」の知識に関する評価規準、鑑＝「思考・判断・表現」の鑑賞に関する評価規準、態鑑＝鑑賞における「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準を表す。

4 指導と評価の計画（全2時間）

●学習のねらい・学習活動	知・技	思	態	評価方法・留意点等
1. 鑑賞（1時間） ●日本の美術作品と西洋の美術作品を比較鑑賞し、造形的な視点に着目し、作品の見方や感じ方を深める。 ・歌川広重「神田明神曙之景」とホッペマ「ミッデルハルニスの並木道」を比較鑑賞し、形や色彩などが感情にもたらす効果、構図などを基に、作品の印象を全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。 ・作品の特徴から感じ取ったことなどをワークシートに記入する。 ・作品の特徴を基に、それぞれの作品の表現の特質についてグループで話し合い、学級全体で共有する。 ・共有した表現の特質を基に、それぞれの作品のよさや美しさについて自分の考えをワークシートに記入する。 ・日本の美術作品の影響を受けたと言われている西洋の美術作品があることについて触れ、次時の学習への見通しをもつ。	知 ↓	鑑 ↓	態鑑 ↓	知 「共通事項」の内容について理解できているかを見取り、できていない生徒に対しては、奥行きを表し方の違いに着目することができるようにするなどの指導を行う。【発言の内容、ワークシート】 鑑 表現の特質などから造形的なよさや美しさを感じ取り、創造的な工夫について考えているかなどを見取る。できていない生徒に対して作品のイメージの違いなどから、それぞれのよさや作者の表現の工夫などについて考えることができるようにするなどの指導を行う。【発言の内容、ワークシート】 態鑑 表現のよさや違いなどを捉えようと主体的に鑑賞をしているかを見取る。できていない生徒に対して、それぞれの作品の描かれているものの違いや描かれている場面、天候などを考えることができるようにするなどの指導を行う。【活動の様子、ワークシート】
2. 鑑賞（1時間） ●日本の美術作品と日本の美術作品の影響を受けた西洋の美術作品を比較鑑賞し、それぞれの美術文化について考え、見方や感じ方を深める。 ・歌川広重「神田明神曙之景」とモネ「陽を浴びるポプラ並木」を比較鑑賞し、造形的な視点を働かせながら、表現の相違点や共通点をワークシートに記入する。 ・ワークシートに記入した内容を基に、西洋の画家が残した西洋の美術作品の表現の特質と、影響を受けた日本の美術作品の表現の特質についてグループで話し合い、学級全体で共有する。 ・日本の美術作品や西洋の美術作品の表現の特質などから、それぞれの作品のよさや美しさ、美術文化についてワークシートにまとめ、学習を振り返る。			態鑑 ↓	知 「共通事項」の内容について理解できているかを見取り、できていない生徒に対しては、構図や作風に注目することができるようにするなどの指導を行う。【発言の内容、ワークシート】 鑑 態鑑 それぞれの美術作品の表現の特質などから相違点や共通点に気付き、表現の意図と創造的な工夫について考えているかどうかなど、主体的に鑑賞をしているかなどを見取る。できていない生徒に対して日本の美術作品の影響を受けた西洋の美術作品と比較鑑賞するよう促すことで、それぞれの美術作品の表現の特質や表現の工夫に気付くことができるようにする。【活動の様子、発言の内容、ワークシート】 態鑑 主体的に作品を鑑賞し、形や色彩などが感情にもたらす効果、構図などを基に、作品の印象を全体のイメージや作風などで捉えることを理解しようとし、日本の美術作品と西洋の美術作品の造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり、表現の意図と創造的な工夫やそれぞれの美術文化などについて考えようとしたりしているかどうかを評価する。【活動の様子、ワークシート】
〈授業外：題材が終了後〉	知 ↓			知 ワークシートの記述などから、形や色彩などが感情にもたらす効果、構図などを基に、作品の印象を全体のイメージや作風などで捉えることを理解しているかどうかを評価する。【ワークシート】

				鑑 日本の美術作品と西洋の美術作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き、表現の意図と創造的な工夫、美術文化などについて考えて、美意識を高め、見方や感じ方を深めているかをワークシートで見取り評価する。【ワークシート】
--	--	--	--	--

※「指導と評価の計画」における記号等の表記は、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 美術』のp.57を参照。

5 題材における観点別学習状況の判断の例

	題材の評価規準【評価方法】、判断のポイントと指導の手立て
知	・「おおむね満足できる」状況（B） 形や色彩などが感情にもたらす効果、構図などを基に、作品の印象を全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。【ワークシート】 ・「十分満足できる」状況（A） 様々な造形の要素に着目し、造形的な特徴を基に、作品の印象を全体のイメージや作風などについてより深い視点で捉え、理解している。 ・「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への指導の手立て等 奥行の表し方の違いに着目したり、構図や作風に着目したりすることができるような言葉掛けを行うことで、形や色彩などが感情にもたらす効果、構図などを基に、作品の印象を全体のイメージや作風などで捉えることを実感的に理解できるようにする。
鑑	・「おおむね満足できる」状況（B） 日本と西洋の美術作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き、表現の意図と創造的な工夫、美術文化などについて考えて、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。【ワークシート】 ・「十分満足できる」状況（A） 造形的なよさや美しさをより深く感じ取り、既習事項を活用したり、他教科の学習と関連付けたりするなどして表現の意図と創造的な工夫や美術文化などについて自分なりの根拠をもって考えて、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。 ・「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への指導の手立て等 感じ取ったことや気付いたことを基に、表現の意図と創造的な工夫、美術文化などについて考えをまとめる際、ヒントカード等で文型を提示して考えを表しやすくすることで、見方や感じ方を深めることができるようにする。
態度	・「おおむね満足できる」状況（B） 主体的に作品を鑑賞し、形や色彩などが感情にもたらす効果、構図などを基に、作品の印象を全体のイメージや作風などで捉えることを理解しようとし、日本の美術作品と西洋の美術作品の造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり、表現の意図と創造的な工夫やそれぞれの美術文化などについて考えようとしたりしている。【活動の様子、ワークシート】 ・「十分満足できる」状況（A） 様々な造形の要素に着目し、造形的な特徴を基に、作品の印象を全体のイメージや作風などについてより深い視点で捉えることを理解しようとし、日本の美術作品と西洋の美術作品の造形的なよさや美しさをより深く感じ取ろうとしたり、表現の意図と創造的な工夫や美術文化について自分なりの根拠をもって考えようとしたりしている。 ・「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への指導の手立て等 再度、形や色彩、構図などに着目できるような言葉掛けを行ったり、他の生徒の考えを紹介したりすることで、造形的な視点を意識することができるようにする。また、他の生徒の様々な見方・考え方を基に、日本や西洋の美術作品や美術文化などについて考えることができるようにする。

6 本時の展開（2／2）

(1) 本時の目標

日本の美術作品と日本の美術作品の影響を受けた西洋の美術作品を比較鑑賞し、それぞれの美術文化について考え、見方や感じ方を深めようとする。

(2) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準【評価方法】等
導入	1 前時の学習を振り返る。	・学習を振り返る際、前時で鑑賞した作品とは異なる日本の美術作品と西洋の美術作品を提示しながら生徒に問い掛けることで、日本の美術作品と西洋の美術作品の表現の特質を確認できるようにする。	
	2 本時のめあてをつかみ、学習の見通しをもつ。	・本時のめあてを提示し、生徒が学習の見通しをもつことができるようにする。	
	めあて：日本と西洋の美術作品を比べながら鑑賞し、西洋の美術作品が日本の美術作品から受けた影響について探り、それぞれの作品のよさや美しさを味わおう。		
展開	3 前時の学習を基に造形的な視点を働かせながら、歌川広重「神田明神曙之景」とモネ「陽を浴びるポプラ並木」を比較鑑賞し、相違点や共通点をワークシートに記入する。 4 ワークシートに記入した内容を基に、モネが残した西洋の美術作品の表現の特質と、影響を受けた日本の美術作品の表現の特質についてグループで話し合う。 5 グループで話し合った内容について、学級全体で共有する。	・美術作品の高精細データを1人1台端末で見ることができるよう準備し、それぞれの美術作品の特徴に気付きやすくする。併せて、美術作品の印刷した図版を準備し、生徒が鑑賞に取り組みやすい方を選択することができるようにする。 ・活動の際は、個人で考えても、近くの生徒に尋ねてもよいとし、生徒が考えやすい学習形態を選択できるようにする。 ・前時の学習内容をクラウドにアップロードし、生徒が必要なときにいつでも確認できるようにする。 ・相違点や共通点をワークシートに記入する活動に難しさを感じている生徒には、造形的な視点に着目するよう促したり、日本の美術作品の影響を受けた西洋の美術作品と比較鑑賞するよう促したりすることで、それぞれの美術作品における表現の特質や工夫を見付けることができるようにする。 ・相違点や共通点を基に、モネが残した西洋の美術作品の表現の特質と、影響を受けた日本の美術作品の表現の特質について、個人の考えをもつてからグループで考えることができるようにする。 ・話し合いを通して自分で見付けることができなかった友達の考えを青色のペン、友達の意見を聞くなどして新たに思い付いた自分の考えを赤色のペンで書き加えることで、作品の見方や感じ方の深まりを可視化できるようにする。 ・話し合った内容をグループ用のホワイトボードに記入するよう促す。 ・全体の共有において、グループでの話し合いと同様に色ペンで書き加えるようにすることで、見方や感じ方の	態鑑 主体的に作品を鑑賞し、形や色彩などが感情にもたらす効果、構図などを基に、作品の印象を全体のイメージや作風などで捉えることを理解しようとし、日本の美術作品と西洋の美術作品の造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり、表現の意図と工夫やそれぞれの美術文化などについて考えようとしたりしている。【活動の様子、ワークシート】

	6 日本の美術作品の影響を受ける前と受けたあとのモネの作品や、ほかのジャポニスムの作品を鑑賞する。	深まりを可視化できるようにする。 - 生徒の様々な見方や感じ方を大切にするために、生徒の意見を集約するときは、受容的な言葉掛けをしたり問い返しをしたりしながら分類や集約を行い、多様な見方や感じ方を共有できるようにする。 - 学級全体で共有した内容を基に、作品を提示したときの生徒の発言に応じ、問い返しを行ったり、視点や情報を提示したりすることで、モネが日本の美術作品から受けた影響について考えることができるようにする。 - モネが10代の頃の作品や、モネと日本の美術との関わりを紹介し、ジャポニスムをきっかけにモネの作品が日本の美術作品から受けた影響について再度考えることができるようにする。 - ゴッホ「タンギー爺さんの肖像」を提示したり、葛飾北斎「魚濫観世音」とガレ「鯉文花器」を比較しながら提示したりするなど、西洋の美術作品が影響を受けたほかの日本の美術作品について紹介する。また、有田焼とジャポニスムの関連についても触れ、郷土の文化と関連付けることができるようにする。	
終末	7 日本の美術作品と西洋の美術作品の表現の特質などから、それぞれの美術作品のよさや美しさ、美術文化についてワークシートに自分の考えをまとめ、学習を振り返る。	- 鑑賞の活動を通して、それぞれの美術作品のよさや美しさについて気付いたことや、様々な国の文化が影響し合いながら美術作品として表現されていることについて自分の考えをまとめるように伝える。 - 自分の考えをもつことが難しい生徒については、ヒントカード等で文型を示し、ワークシートに記入することができるようにする。 - 生徒の考えを幾つか紹介し、題材全体を通して学習したことを振り返ることができるようにする。	

7 本時における観点別学習状況の判断の例

	題材の評価規準【評価方法】、判断のポイントと指導の手立て
鑑賞	「おおむね満足できる」状況（B） 主体的に作品を鑑賞し、形や色彩などが感情にもたらす効果、構図などを基に、作品の印象を全体のイメージや作風などで捉えることを理解しようとし、日本の美術作品と西洋の美術作品の造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり、表現の意図と創造的な工夫やそれぞれの美術文化などについて考えようとしたりしている。【活動の様子、ワークシート】 「十分満足できる」状況（A） 様々な造形の要素に着目し、造形的な特徴を基に、作品の印象を全体のイメージや作風などについてより深い視点で捉えることを理解しようとし、日本の美術作品と西洋の美術作品の造形的なよさや美しさをより深く感じ取ろうとしたり、表現の意図と創造的な工夫や美術文化について自分なりの根拠をもって考えようとしたりしている。 「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への指導の手立て等 再度、形や色彩、構図などに着目できるような言葉掛けを行ったり、他の生徒の考えを紹介したりすることで、造形的な視点を意識することができるようにする。また、他の生徒の様々な見方・考え方を基に、日本や西洋の美術作品や美術文化などについて考えることができるようにする。